

日本マクロエンジニアリング学会第 45 回春季研究大会開催報告

2024 年 6 月 15 日 15:00～17:00、標記研究大会が開催され、先駆的な発表と活発な質疑応答がされた。

発表 1 フィリピンにおけるシャリーア制度

○丸山 実紗（拓殖大学大学院 国際協力学研究科 国際開発専攻 博士後期課程 3 年）

フィリピンでは、マイノリティであるイスラーム社会の秩序の安定を目指す一方で、国家とマジョリティキリスト教社会との関係をどう構築していくかということが問われ続けてきた。ここでは、イスラーム社会の秩序を形成する CPMLL(フィリピン・ムスリム身分法：Code of Muslim Personal Laws of the Philippines)に焦点をあて、同法の特徴とシャリーア裁判制度の構造、柔軟性、同社会においてシャリーアが果たす役割を考察された。国際親善、支援を云々前の基本的な調査・研究として重要性を感じさせた。

発表 2 米国防総省における超電導技術の研究、開発、試験及び評価

○堀内 正隆（国立研究開発法人科学技術振興機構）

米国防総省が行った超電導技術の研究、開発、試験及び評価を分析することで、可能性はあるが直ぐには実用化に至らない技術を保持または支援し、徐々に前進させ、将来につなげようとする手法を研究した。

一般的な R&D や経済性とは異なる国防の立場からなすべきこと、開発成否の予見は難しいものの対象となる新興技術の特徴や開発段階に応じて開発成果を継承し実用化に到達させる手法、及び RDT&E 制度の技術保存機能とその必要性を考察された。

発表 3 岩手町観光協会及び岩手広域交流センターの観光拠点としての多面的利活用に関するフィージビリティースタディー

○新田 義修（岩手県立大）

行政サービスの向上、生活利便性の向上、地域産品の展開、生活関連施設の整備、交通インフラの整備、雇用機会の創出、地域経済の活性化など、地域の現状や課題に対し、SWOT 分析を進められた。

自然、都市の魅力、文化、食文化など、地域の特徴を生かした、魅力あるコンテンツを見出し、作成し、観光客に伝える手法が必要になること、現場は人手不足であるが、これらを進める専門チームの必要性を訴えられた。

発表 4 インフレーションについて：カレツキによる考察

○松谷 泰樹（中央大学経済学部）

ミハウ・カレツキ（Michal Kakecki、ポーランドの経済学者、古典派、マルクス派の概念を導入し、マクロ経済学の経済変動理論および有効需要を発表し、ケインズ派に影響を与えた）の二つ（1938, 1954）の論文から、カレツキにおける主要費用の決定、インフレーション理論の形成について考察された。

カレツキは経済学に数学を使う方法を発展させたとのことですが、松谷先生も数式を多用され、数学が苦手な事務局（開催報告取りまとめ）には困りました。

編集後記（事務局）

事務局は後期高齢者間近で（その世代はギリギリ）、新入社員の頃、戦前の甲種テクノクラートの方から、仕事への姿勢・倣いを躰けられました。今日の発表では、マクロエンジニアリングのこと始め、成果を求める前の地道な調査・研究の重要性・必要性など、先達の教訓を思い出しました。

先達の話には他にも「一隅を照らす、足るを知る、刻苦光明、戦うことより戦場にたどり着くことの方が大変・・・」戦前の教訓はエンジニアリングの正鵠を得ています。遡れば、神道（誤解のないよう、自然への畏敬）、仏教（人間工学的な生活法・躰け・学問）は太古から受け継がれた「基本的資質」と思われます。